

# 脳 実 習

科目責任者 上 田 秀 一  
 学年・学期 2 学年・2 学期

## I. 前 文

これまで第1学年で学んできた、神経解剖学の知識をより具体化するため、脳解剖実習を行う。この脳実習により、2次元的に学んだ脳・神経系は、より立体的に把握される事となる。

実習時には臨床的関連事項についても説明を行う。

## II. 担当教員

教 授 上 田 秀 一 解剖学（組織）  
 学内准教授 江 原 鮎 香 解剖学（組織）  
 講 師 山 口 剛 解剖学（組織）  
 助 教 甲 斐 信 行 解剖学（組織）  
 助 教 橘 篤 導 解剖学（組織）  
 学内教授 辰 元 宗 人 医療安全推進センター

## III. 一般学習目標

脳・神経系の構造と機能についての相関性の理解を深める。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 脳の構造を立体的に把握し説明できる。
- 2) 脳の構造を機能の上から説明できる。

## V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
	10	5	月	5	脳実習 オリエンテーション	解剖学（組織） 全 教 員
		5	月	6	脳実習 オリエンテーション	解剖学（組織） 全 教 員
1		6	火	4	脳実習（講義）1	上 田 秀 一
2		6	火	5	脳実習2	解剖学（組織） 全 教 員
3		6	火	6	脳実習3	解剖学（組織） 全 教 員
4		6	火	7	脳実習4	解剖学（組織） 全 教 員
5		7	水	1	脳実習（講義）5	上 田 秀 一
6		7	水	4	脳実習6	解剖学（組織） 全 教 員
7		7	水	5	脳実習7	解剖学（組織） 全 教 員
8		7	水	6	脳実習8	解剖学（組織） 全 教 員
9		7	水	7	脳実習9	解剖学（組織） 全 教 員

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
10	10	8	木	4	脳実習（講義）10	上 田 秀 一
11		8	木	5	脳実習11	解剖学（組織） 全 教 員
12		8	木	6	脳実習12	解剖学（組織） 全 教 員
13		8	木	7	脳実習13	解剖学（組織） 全 教 員
14		14	水	4	脳実習（講義）14	上 田 秀 一
15		14	水	5	脳実習15（神経の診察方法）	辰 元 宗 人
16		14	水	6	脳実習16（神経の診察方法）	辰 元 宗 人
17		14	水	7	脳実習17	解剖学（組織） 全 教 員
18		15	木	1	脳実習18	解剖学（組織） 全 教 員
19		15	木	2	脳実習19	解剖学（組織） 全 教 員
20		15	木	3	脳実習20	解剖学（組織） 全 教 員
21		15	木	4	脳実習21	解剖学（組織） 全 教 員
22		15	木	5	脳実習22	解剖学（組織） 全 教 員
23		15	木	6	脳実習23	解剖学（組織） 全 教 員
24		15	木	7	脳実習24	解剖学（組織） 全 教 員

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験および口答試験，さらに出席状況により総合的に評価する。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

ハインズ 神経解剖学アトラス 山内（訳） メディカル・サイエンス・インターナショナル  
プロメテウス 解剖学アトラス 医学書院

#### VIII. 質問への対応方法

申し出により，放課後・土曜日に実習室を開放することがある。

放課後，教室にて随時受け付ける。

まとまった質問やグループでの質問については，毎週土曜日の午前（9時～12時）をオフィスアワーとし，担当教員が対応する。（ただし第3土曜および休日を除く）

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

行動目標を課題としてe-Reviewでの自己学習を行い、試験成績に加点している。

課題の中から学期末試験問題を作成している。

## XI. 求められる事前学習、事後学習

シラバス別冊に記載済み。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

## XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載済み。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）